

令和 5 年 1 月 2 0 日

交 通 事 故 概 況

令和 4 年12月中計上数(確定数)

警察本部交通部交通企画課

北海道の交通事故概況（12月中計上数（確定数））

1 令和4年12月中の交通事故発生状況

区分\内容	12月中	前年比	12月末	前年比
発生件数(件)	858	-37	8,457	153
死者数(人)	6	-4	115	-5
傷者数(人)	996	-38	9,785	187

[過去10年、12月中及び年間死者の推移]

区分\年別	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	過去平均		R4年
											10か年	5か年	
12月中死者	21	20	9	9	14	11	12	12	18	10	14	13	6
年間死者	200	184	169	177	158	148	141	152	144	120	159	141	115

都道府県別(12月中)

順 位	1	2	3		5	
都道府県名	東京	茨城	大阪	愛知	千葉	神奈川
死 者 数	16	14	13		12	

都道府県別(12月末)

順位	1	2	3	4	5	6
都道府県名	大阪	愛知	東京	千葉	兵庫	北海道
死者数	141	137	132	124	120	115

2 交通死亡事故の発生状況

(1) 12月中の死亡事故（死者6人）

- 事故類型別：人対車両が3人(50.0%)、正面衝突が2人(33.3%)、車両単独が1人(16.7%)
- 道路別：市町村道が3人(50.0%)、道道が2人(33.3%)、国道が1人(16.7%)
- 地形・道路形状別：市街地交差点、非市街地直線が各々3人(50.0%)
- 発生時間別：16～18時が3人(50.0%)、8～10時、12～14時、14～16時が各々1人(16.7%)
- 第一当事者年齢別（原付以上）：50歳代運転者、60～64歳運転者による死者が各々2人(33.3%)
- 第一当事者違反別（原付以上）：操作不適が3人(50.0%)、歩行者妨害が2人(33.3%)
- 死者年齢別：高齢者の死者が4人(66.7%)、60～64歳の死者が2人(33.3%)

(2) 12月末の死亡事故（死者115人）

- 事故類型別：
 - ・車両単独が42人36.5%（うち前方不注意が11人26.2%、最高速度が10人23.8%）
 - ・人対車両が32人27.8%（うち前方不注意が13人40.6%、歩行者妨害8人25.0%）
- 道路別：
 - ・国道が42人36.5%（うち車両単独が15人35.7%、正面衝突が13人31.0%）
 - ・道道が34人29.6%（うち車両単独が12人35.3%、人対車両が10人29.4%）
 - ・市町村道が31人27.0%（うち人対車両が14人45.2%、車両単独が11人35.5%）
- 地形・道路形状別：
 - ・市街地交差点が38人33.0%（うち人対車両が18人47.4%、自転車対車が7人18.4%）
 - ・非市街地直線が27人23.5%（うち車両単独が14人51.9%、正面衝突が9人33.3%）
 - ・非市街地カーブが22人19.1%（うち車両単独が14人63.6%、正面衝突が8人36.4%）
- 発生時間別：
 - ・14～16時が20人17.4%（うち車両単独が9人45.0%、正面衝突が3人15.0%）
 - ・10～12時が16人13.9%（うち正面衝突、車両単独が各々6人37.5%、人対車両が4人25.0%）
 - ・16～18時が15人13.0%（うち車両単独が6人40.0%、人対車両が5人33.3%）
- 第一当事者年齢別：（原付以上）
 - ・高齢運転者による死者が39人33.9%（うち車両単独が11人28.2%、人対車両が9人23.1%）
 - ・40歳代運転者による死者が21人18.3%（うち車両単独が9人42.9%、人対車両が4人19.0%）
 - ・50歳代運転者による死者が18人15.7%（うち車両単独が9人50.0%、人対車両が8人44.4%）
- 第一当事者違反別：（原付以上）
 - ・前方不注意が32人27.8%（うち人対車両が13人40.6%、車両単独が11人34.4%）
 - ・操作不適が16人13.9%（うち車両単独が9人56.3%、正面衝突が7人43.8%）
 - ・最高速度が12人10.4%（うち車両単独が10人83.3%、正面衝突が2人16.7%）
- 死者年齢別：
 - ・高齢者の死者が63人54.8%（うち人対車両が26人41.3%、車両単独が19人30.2%）
 - ・40歳代の死者が18人15.7%（うち車両単独が10人55.6%）
- シートベルト着用者：
 - 自動車乗車中の死者48人中、シートベルト非着用者は17人(35.4%)であり、このうち15人はシートベルトを装着していれば助かった可能性が高い。

(3) 方面別発生状況

12月中の死者数は札幌方面が4人(66.7%)、旭川方面が2人(33.3%)となっている。

12月末の死者数は札幌方面が61人(53.0%)、旭川方面が23人(20.0%)、釧路方面が18人(15.7%)、函館方面が7人(6.1%)、北見方面が6人(5.2%)となっている。

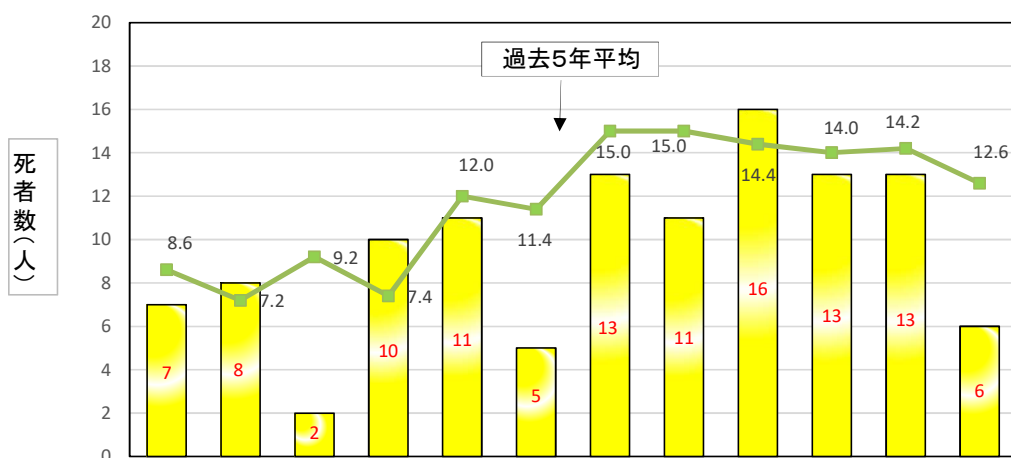
方面別\区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比
12月中	全道	858	-37	6	-4	996	-38
	札幌方面	626	-21	4		728	-22
	函館方面	46	-44		-1	54	-57
	旭川方面	81	7	2	1	91	1
	釧路方面	81	14		-3	95	29
	北見方面	24	7		-1	28	11

方面別\区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比
12月末	全道	8,457	153	115	-5	9,785	187
	札幌方面	6,343	292	61	3	7,313	346
	函館方面	577	-51	7	-11	684	-56
	旭川方面	679	-25	23	6	809	-43
	釧路方面	652	-34	18	-2	731	-38
	北見方面	206	-29	6	-1	248	-22

(4) 月別発生状況の推移

12月中の死者数は6人で過去5年平均12.6人を下回っている。

12月末の死者数は115人で過去5年平均141.0人を下回っている。



区分\月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和4年	7	8	2	10	11	5	13	11	16	13	13	6	115
年間累計	7	15	17	27	38	43	56	67	83	96	109	115	
過去5年平均	8.6	7.2	9.2	7.4	12.0	11.4	15.0	15.0	14.4	14.0	14.2	12.6	141.0
累計平均	8.6	15.8	25.0	32.4	44.4	55.8	70.8	85.8	100.2	114.2	128.4	141.0	

(5) 都道府県別死者

12月中は東京都が16人で最も多く、次いで茨城県が14人、大阪と愛知が各々13人で北海道は6人で20位となっている。

12月末は大阪府が141人で最も多く、愛知県が137人、東京都が132人、千葉県が124人、兵庫県が120人で北海道は115人で6位となっている。

区分\都道府県	東京	茨城	大阪	愛知	千葉	神奈川	兵庫	静岡	福岡	広島	全国
12月中死者数	16	14	13	13	12	12	11	10	10	10	280
ワースト順位	1	2	3	3	5	5	7	8	8	8	—
前年比	-5	1	-3	2	-2	-4	-4	5	3	0	-4
増減率(%)	-23.8	7.7	-18.8	18.2	-14.3	-25.0	-26.7	100.0	42.9	0.0	-1.4

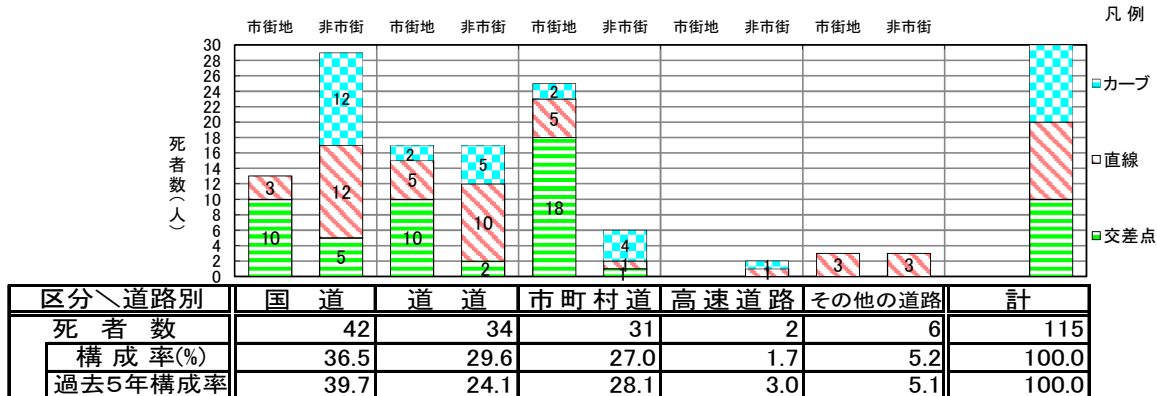
区分\都道府県	大阪	愛知	東京	千葉	兵庫	北海道	神奈川	埼玉	茨城	静岡	全国
12月末死者数	141	137	132	124	120	115	113	104	91	83	2,610
ワースト順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	—
前年比	1	20	-1	3	6	-5	-29	-14	11	-6	-26
増減率(%)	0.7	17.1	-0.8	2.5	5.3	-4.2	-20.4	-11.9	13.8	-6.7	-1.0

3 死亡事故の特徴

(1) 道路別

国道が42人(36.5%)で最も多く、道道が34人(29.6%)、市町村道が31人(27.0%)となっている。

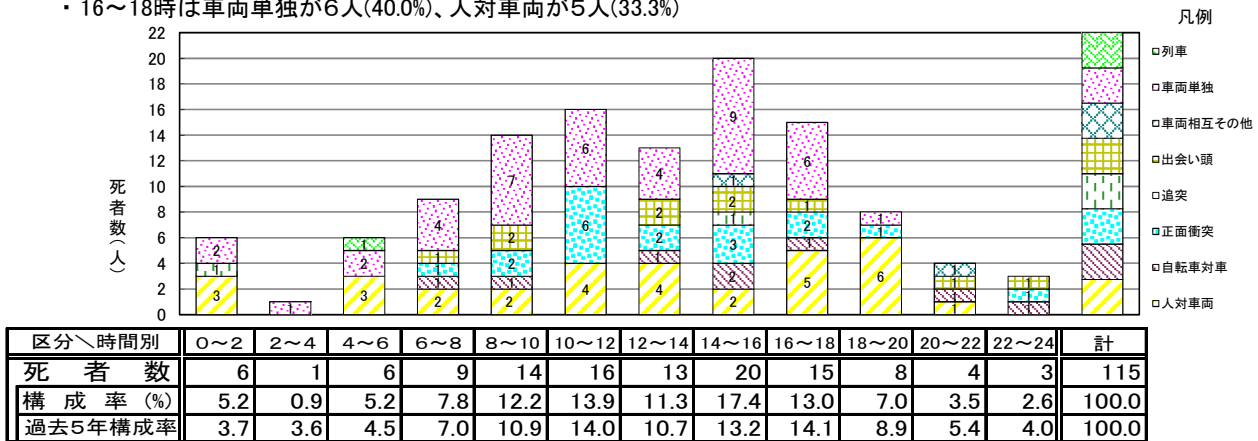
- ・ 国道は非市街地直線、非市街地カーブが各々12人(28.6%)
- ・ 道道は市街地交差点、非市街地直線が各々10人(29.4%)となっている
- ・ 市町村道は市街地交差点が18人(58.1%)、市街地直線が5人(16.1%)となっている



(2) 時間別

14～16時が20人(17.4%)、10～12時が16人(13.9%)、16～18時が15人(13.0%)となっている。

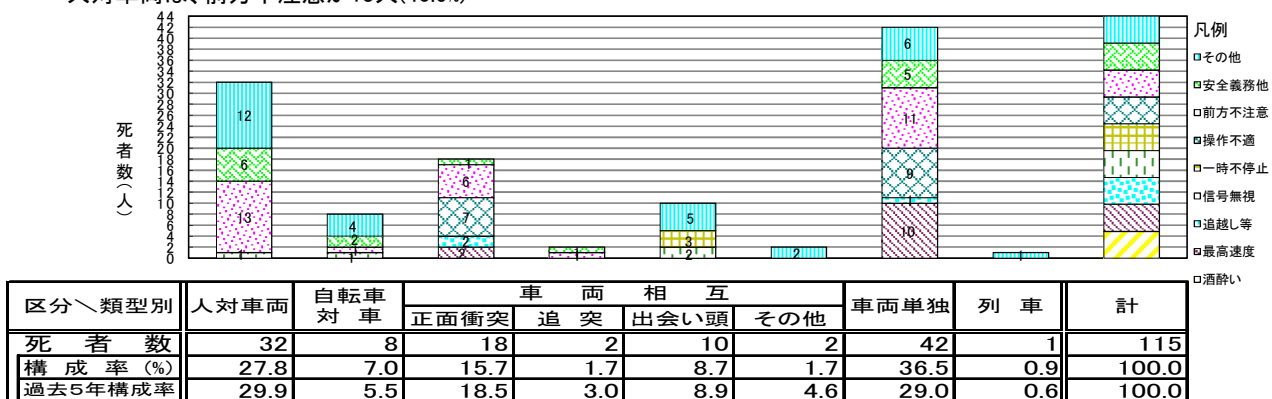
- ・ 14～16時は車両単独が9人(45.0%)、正面衝突が3人(15.0%)
- ・ 10～12時は正面衝突、車両単独が各々6人(37.5%)、人対車両が4人(25.0%)
- ・ 16～18時は車両単独が6人(40.0%)、人対車両が5人(33.3%)



(3) 事故類型別

車両単独が42人(36.5%)、人対車両が32人(27.8%)となっている。

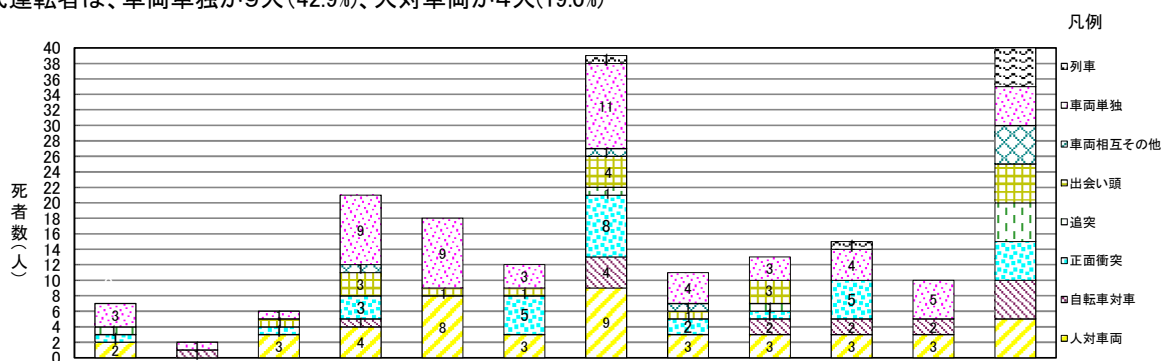
- ・ 車両単独は、前方不注意が11人(26.2%)、最高速度が10人(23.8%)
- ・ 人対車両は、前方不注意が13人(40.6%)



(4) 第一当事者の年齢層別

高齢運転者によるものが39人(33.9%)、40歳代運転者が21人(18.3%)となっている。

- ・ 高齢運転者は、車両単独が11人(28.2%)、人対車両が9人(23.1%)
- ・ 40歳代運転者は、車両単独が9人(42.9%)、人対車両が4人(19.0%)



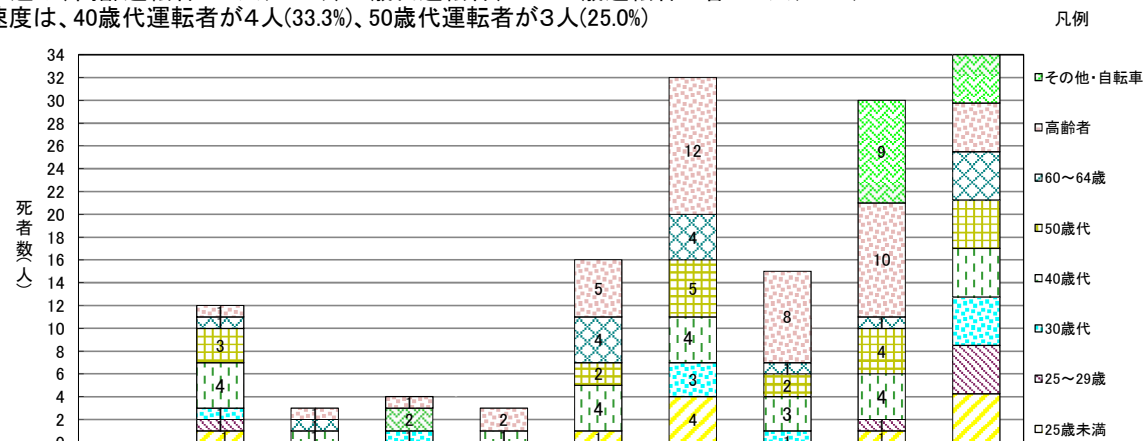
区分\年齢別	25歳未満	25～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	高齢者	65～69歳	70～74歳	75歳以上	歩行者等・不明	計
死者数	7	2	6	21	18	12	39	11	13	15	10	115
構成率(%)	6.1	1.7	5.2	18.3	15.7	10.4	33.9	9.6	11.3	13.0	8.7	100.0
過去5年構成率	8.9	3.7	10.3	16.7	15.8	8.3	31.5	8.8	8.2	14.6	4.8	100.0

構成率は全死者に対する割合

(5) 第一当事者の違反(原因)別

前方不注意によるものが32人(27.8%)、操作不適が16人(13.9%)、最高速度が12人(10.4%)。

- ・ 前方不注意は、高齢運転者が12人(37.5%)、50歳代運転者が5人(15.6%)
- ・ 操作不適は、高齢運転者が5人(31.3%)、40歳代運転者、60～64歳運転者が各々4人(25.0%)
- ・ 最高速度は、40歳代運転者が4人(33.3%)、50歳代運転者が3人(25.0%)



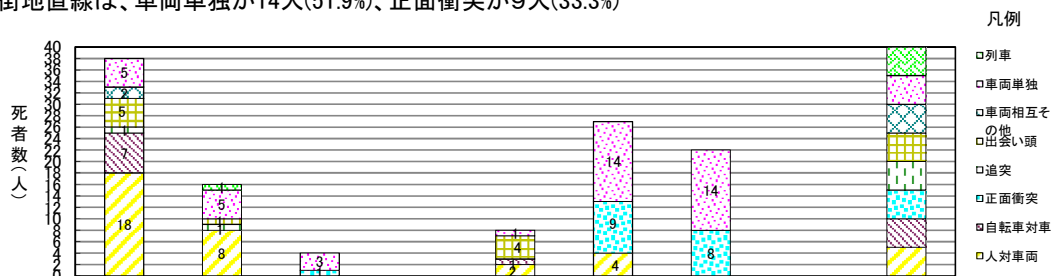
区分\原因別	酒酔い	最高速度	追越し等	信号無視	一時不停止	安全運転義務違反			その他	計
						操作不適	前方不注意	その他		
死者数		12	3	4	3	16	32	15	30	115
構成率(%)		10.4	2.6	3.5	2.6	13.9	27.8	13.0	26.1	100.0
過去5年構成率	0.3	10.3	2.4	3.3	4.3	13.5	33.0	9.2	23.7	100.0

※ その他に自転車等を含む

(6) 地形・道路形状別

市街地交差点が38人(33.0%)、非市街地直線が27人(23.5%)。

- ・ 市街地交差点は、人対車両が18人(47.4%)、自転車対車が7人(18.4%)
- ・ 非市街地直線は、車両単独が14人(51.9%)、正面衝突が9人(33.3%)



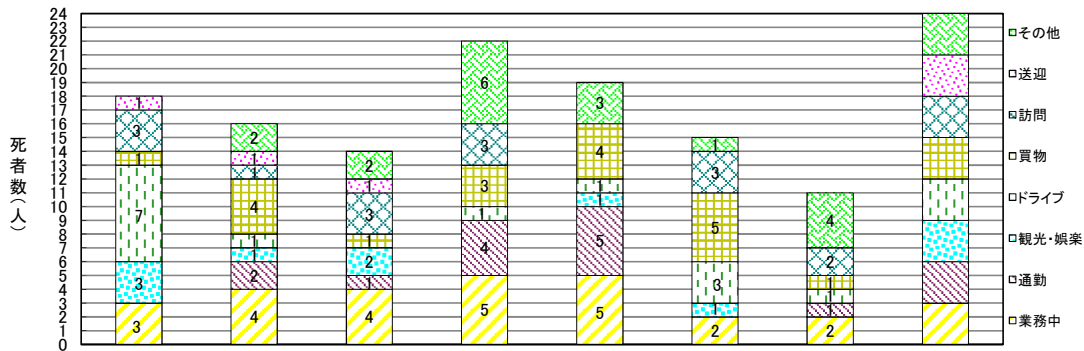
区分\地形道路形状別	市街地				非市街地				計
	交差点	直線	カーブ	小計	交差点	直線	カーブ	小計	
死者数	38	16	4	58	8	27	22	57	115
構成率(%)	33.0	13.9	3.5	50.4	7.0	23.5	19.1	49.6	100.0
過去5年構成率	34.2	13.1	2.8	50.1	8.0	24.7	17.1	49.9	100.0

(7) 曜日別

水曜日が22人(19.1%)、木曜日が19人(16.5%)となっている。

- ・水曜日は、業務中及び私用その他が各々5人(22.7%)
- ・木曜日は、業務中及び通勤が各々5人(26.3%)

凡例



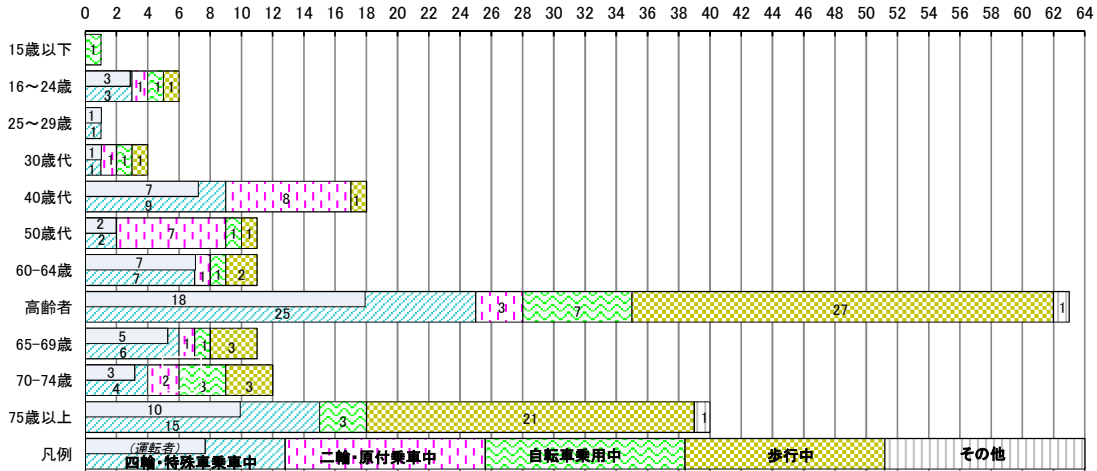
区分\曜日別	日	月	火	水	木	金	土	計
死者数	18	16	14	22	19	15	11	115
構成率(%)	15.7	13.9	12.2	19.1	16.5	13.0	9.6	100.0
過去5年構成率	14.7	12.2	15.0	16.2	14.9	13.4	13.5	100.0

(8) 状態別・年齢層別

四輪乗車中が48人(41.7%)で最も多く、歩行中が33人(28.7%)となっている。

- ・四輪乗車中は、高齢者が25人(52.1%)、40歳代が9人(18.8%)
- ・歩行中は、高齢者が27人(81.8%)
- ・年齢層別では、高齢者が63人(54.8%)で、うち75歳以上が40人(63.5%)となっている

死者数(人)



状態別 年齢層別\		四輪乗車中 (特殊車を含む)	二輪乗車中 (原付を含む)	自転車乗車中	歩行中	その他	計	構成率	
								5年	過去5年
15歳以下	死者数			1			1	0.9	1.6
16~24歳	死者数	3	1	1	1		6	5.2	6.4
25~29歳	死者数	1					1	0.9	2.4
30歳代	死者数	1	1	1	1		4	3.5	6.4
40歳代	死者数	9	8		1		18	15.7	9.7
50歳代	死者数	2	7	1	1		11	9.6	11.0
60~64歳	死者数	7	1	1	2		11	9.6	7.3
高齢者	死者数	25	3	7	27	1	63	54.8	55.2
65~69歳	死者数	6	1	1	3		11	9.6	9.5
70~74歳	死者数	4	2	3	3		12	10.4	10.1
75歳以上	死者数	15		3	21	1	40	34.8	35.6
計	死者数	48	21	12	33	1	115	100.0	
	構成率	41.7	18.3	10.4	28.7	0.9	100.0	—	—
	過去5年構成率	50.1	11.9	6.5	30.8	0.6	100.0	—	—

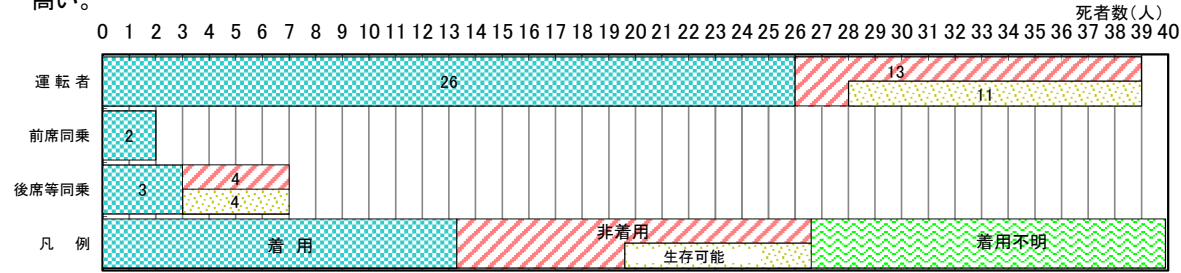
注 高齢者の内訳の構成率は全死者に対する割合。

(9) シートベルト着用状況別

ア 乗車区分別

自動車乗車中の死者48人中、シートベルト非着用者は17人(35.4%)となっている。

非着用者15人(運転席は11人)は、車両の破損状況等から見て、シートベルトを着用していれば生存していた可能性が高い。



区分	四輪乗車中等	着用			計	非着用			着用不明
		計	運転者	同乗者(助手席・後部席)		計	運転者(生存可)	同乗者(助手席・後部席)(生存可)	
令和4年	48	31	26	2	3	17	13	11	4
構成率(%)	100.0	64.6	83.9	6.5	9.7	35.4	76.5	84.6	23.5

イ 年齢層別

シートベルト非着用者17人を年齢層別にみると、高齢者が9人(52.9%)、40歳代が6人(35.3%)となっている。

区分\年齢別	25歳未満	25～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	高齢者	65～69歳	70～74歳	75歳以上	その他・不明	計
ヘルト着用	3	1	1	3	2	5	16	4	3	9		31
構成率(%)	9.7	3.2	3.2	9.7	6.5	16.1	51.6	12.9	9.7	29.0		100.0
ヘルト非着用				6		2	9	2	1	6		17
構成率(%)				35.3		11.8	52.9	11.8	5.9	35.3		100.0

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。
高齢者の内訳の構成率は合計数に対する割合。

ウ 損傷加害部位別

シートベルト非着用者17人の人身損傷加害部位をみると、座席、車内他が各々3人、車外放出、ハンドル、フロントガラスが各々2人、車外他が1人となっている。

区分\部位別	車外放出	車外他	ハンドル	フロントガラス	計器盤	ドア・窓	柱	天井	座席	車内他	その他	計
ヘルト着用	1	2	5					2	6	10	2	28
構成率(%)	3.6	7.1	17.9					7.1	21.4	35.7	7.1	100.0
ヘルト非着用	2	1	2	2					3	3	4	17
構成率(%)	11.8	5.9	11.8	11.8					17.6	17.6	23.5	100.0
運転者	2	1	2	1					1	3	3	13
構成率(%)	11.8	5.9	11.8	5.9					5.9	17.6	17.6	76.5
同乗者				1					2		1	4
構成率(%)				5.9					11.8		5.9	23.5

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。
但し、ベルト非着用の運転同乗者別の構成率は、ベルト非着用の合計数に対する割合。

4 冬型交通事故の状況(年度計上)

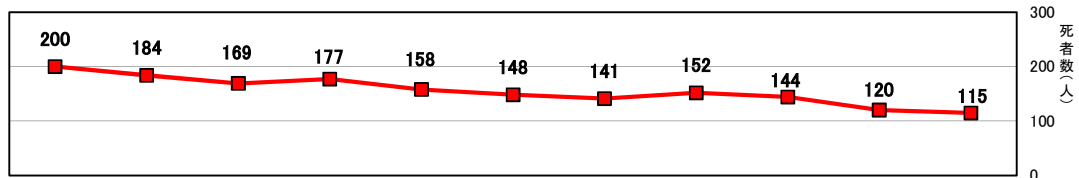
冬型事故の令和4年度(ここでは令和4年12月)の死者数は次のとおり。

年度区分		死 者 数					
		11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	死亡事故	13	6				19
	冬型事故		4				4
	スリップ		4				4
	視界不良						
	わだち						
	その他						
令和3年度	死亡事故	15	10	7	8	2	42
	冬型事故	1	6	4	1	1	13
	スリップ	1	5	4		1	11
	視界不良				1		1
	わだち		1				1
	その他						

5 過去10年間の推移(各年12月末死者数)

(1) 死者数の推移

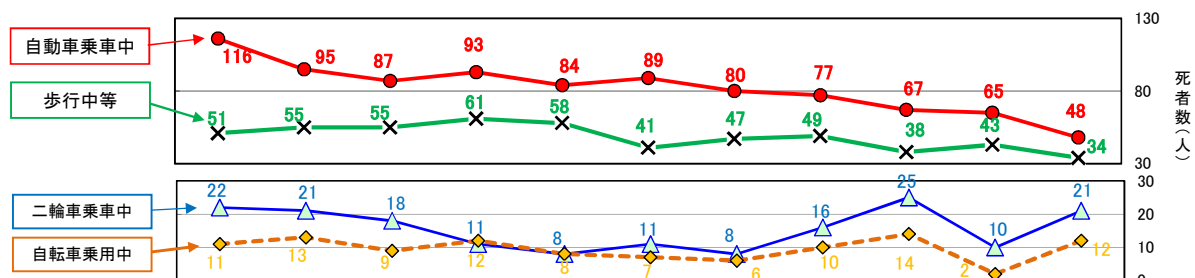
平成24年以降は減少傾向で推移し、令和4年は過去最小の115人となった。



年別	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
死者数	200	184	169	177	158	148	141	152	144	120	115

(2) 状態別

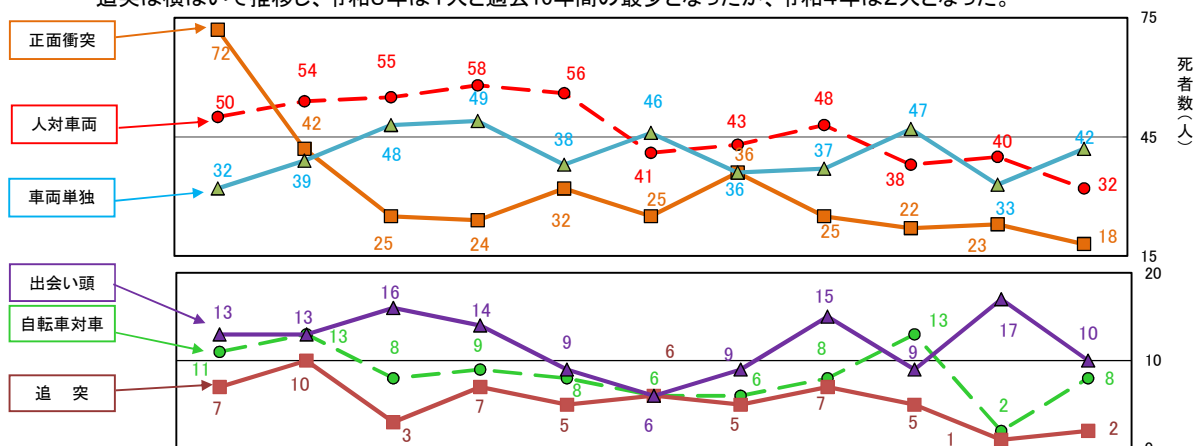
- ・自動車乗車中(二輪を除く)は減少傾向であり、令和4年は過去10年で最少の48人となった。
- ・歩行中等は増減を繰り返しながら推移し、令和4年は自動車乗車中と同じく過去10年で最少の34人となった。
- ・二輪乗車中は前年より倍以上に増加し、二輪車の死亡事故が目立つ結果となった。
- ・自転車乗用中の事故も、二輪乗車中と同じく前年より大幅に増加し、過去10年で3番目に多い12人となった。



状態別	年別	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
自動車乗車中		116	95	87	93	84	89	80	77	67	65	48
二輪乗車中		22	21	18	11	8	11	8	16	25	10	21
自転車乗用中		11	13	9	12	8	7	6	10	14	2	12
歩行中等		51	55	55	61	58	41	47	49	38	43	34
合計		200	184	169	177	158	148	141	152	144	120	115

(3) 事故類型別

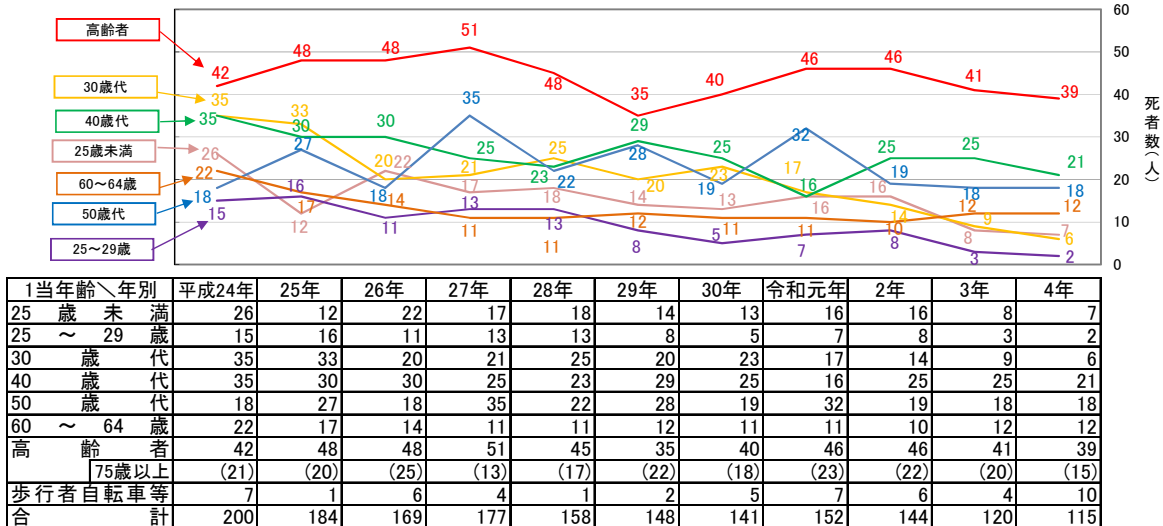
- ・人対車両は、平成29年に大きく減少、その後は増減を繰り返し、令和4年は過去10年で最小の32人となった。
- ・車両単独は令和3年に大きく減少したが、令和4年は前年より9人増加した。
- ・正面衝突は平成26年以降横ばいで推移していたが、令和4年は18人と過去10年で最少となった。
- ・出会い頭は増減を繰り返し、令和4年は前年より減少し10人となった。
- ・自転車対車は横ばいで推移し、令和3年は過去10年で最少の2人となったが、令和4年は増加し8人となった。
- ・追突は横ばいで推移し、令和3年は1人と過去10年間の最少となったが、令和4年は2人となった。



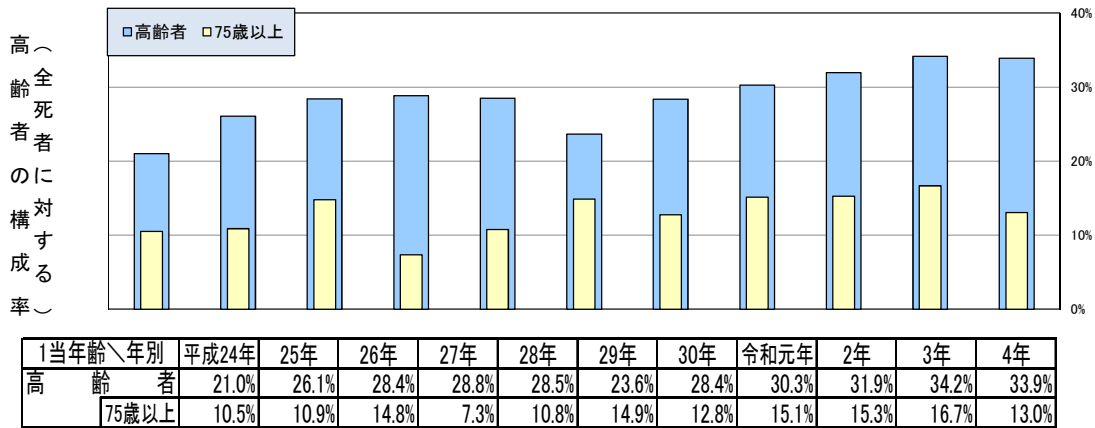
類型別	年別	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
人対車両		50	54	55	58	56	41	43	48	38	40	32
自転車対車		11	13	8	9	8	6	6	8	13	2	8
正面衝突		72	42	25	24	32	25	36	25	22	23	18
追突		7	10	3	7	5	6	5	7	5	1	2
出会い頭		13	13	16	14	9	6	9	15	9	17	10
車両相互その他		15	12	14	15	7	17	6	11	10	2	2
車両単独		32	39	48	49	38	46	36	37	47	33	42
列		0	1	0	1	3	1	0	1	0	2	1
合計		200	184	169	177	158	148	141	152	144	120	115

(4) 第一当事者年齢層別

過去10年間をみると40歳代以下の減少が目立ち、50歳代以上は、おおそ横ばいで微減となっている。

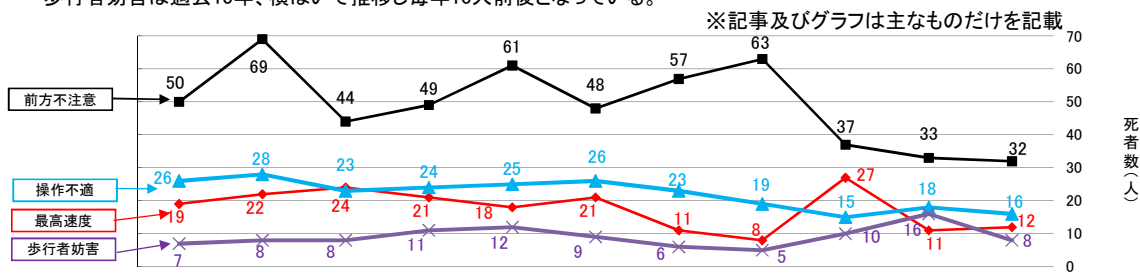


1当高齢運転者による死者数を構成率でみると増減を繰り返しているが、令和元年～令和4年は30%を超えて、高い割合を示している。また、75歳以上については前年と比べて減少している。



(5) 主な違反(原因)別

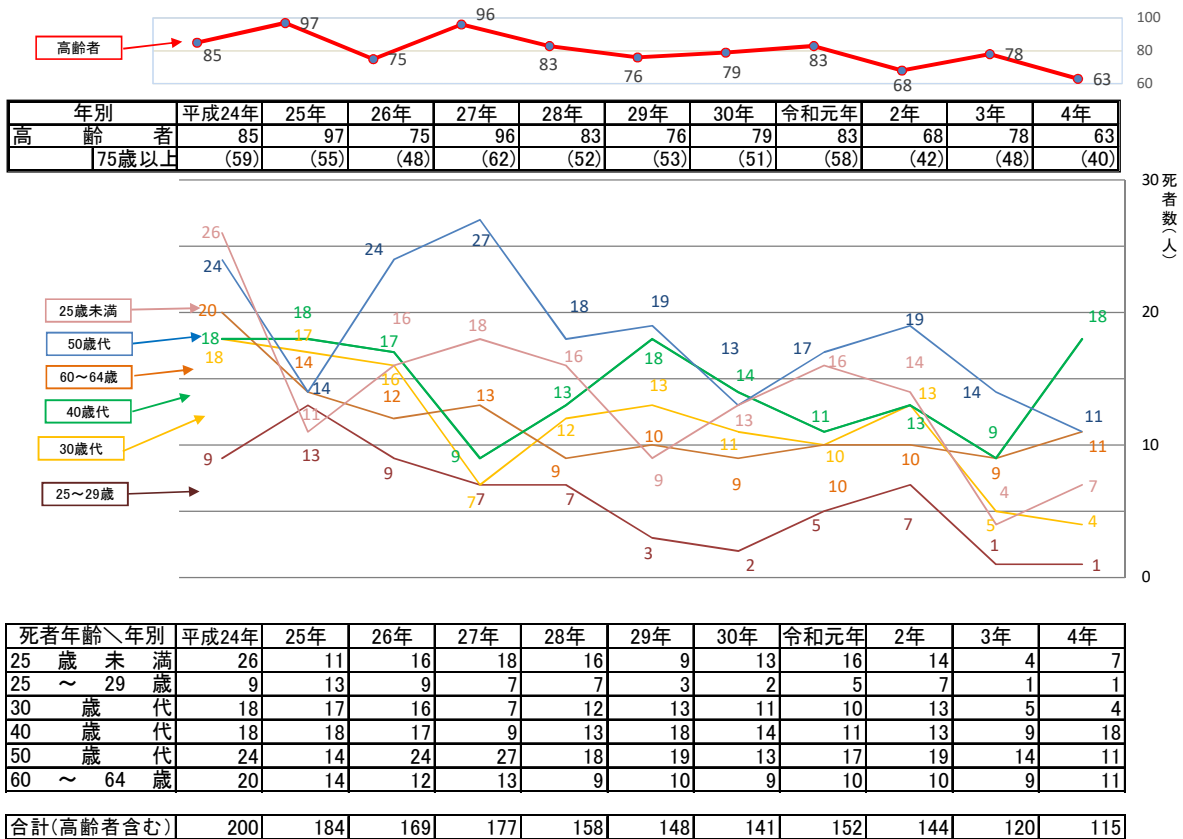
- ・ 前方不注意は令和2年に急減して以降、緩やかに減少を続け、令和4年は過去10年で最少の32人となった。
- ・ 操作不適はおおよそ減少傾向で令和元年以降、横ばいで推移している。
- ・ 最高速度は令和2年に一時的に増加したが、減少傾向で推移している。
- ・ 歩行者妨害は過去10年、横ばいで推移し毎年10人前後となっている。



違反別\年別	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
酒 酔 い	8	5	11	5	0	0	0	0	1	1	0
最 高 速 度	19	22	24	21	18	21	11	8	27	11	12
追 越、通 行 区 分	14	3	2	1	5	1	1	3	6	3	3
歩 行 者 妨 害	7	8	8	11	12	9	6	5	10	16	8
信 号 無 視	2	5	6	5	4	3	1	7	3	7	4
一 時 不 停 止	10	9	8	12	4	3	7	6	7	6	3
過 労 運 転	20	1	1	0	0	1	0	0	0	3	2
操 作 不 適	26	28	23	24	25	26	23	19	15	18	16
前 方 不 注 意	50	69	44	49	61	48	57	63	37	33	32
安 全 速 度	9	3	1	9	9	8	6	8	12	3	8
安 義 そ の 他	8	2	7	11	6	11	5	5	3	5	7
そ の 他	22	29	30	26	13	15	19	21	17	10	11
歩 行 者 自 転 車	5	0	4	3	1	2	5	7	6	4	9
合 計	200	184	169	177	158	148	141	152	144	120	115

(6) 死者の年齢層別

平成24年以降、全体的に死者が減少しているが、高齢者が全ての年で最も多く、令和4年の40歳代の死者は令和3年に比べ倍増した。



全死者に対する高齢者の構成率は、前年より減少したものの、依然として50%以上を占める。

